



イラスト：やうかい

# 浄土宗 Honen Buddhism 新聞

仏教歳時記

## 花まつり

お釈迦さまのお誕生日

4月8日は仏教の開祖、お釈迦さまのお誕生をお祝いする「花まつり」です。花御堂でお釈迦さまに甘茶をかけた、という経験がある方もいらっしゃるでしょう。お釈迦さまの誕生はもちろん、私たち一人ひとりの命の尊さも喜びましょう。



春の花々で彩られた花御堂



Jodo Shu  
Buddhist Denomination  
https://jodo.or.jp/

発行：浄土宗 / 編集：浄土宗出版  
東京都港区芝公園4-7-4 明照会館3階  
TEL 03(3436)3700  
購読お申し込みは12面をご覧ください



法然上人  
浄土宗  
開宗850年  
お念佛からはじまる幸せ  
2024

文／浄土宗総合研究所主任研究員・袖山榮輝

### 花まつりの起り

お釈迦さまはおよそ2500年前、現在のインド・ネパールの国境付近、カピラという小国を治める釈迦族の王子として誕生しました。生母マヤー妃が出産のための里帰りの途中、ルンビニーの地にある花園でお生まれになったと伝えられており、その故事にちなんで「花まつり」と呼ばれています。

2500年前の4月の日本の季節はわかりませんが、現在は春爛漫。見頃の桜をはじめ、冬の寒さから目覚めた花々が咲き誇ります。生命力と希望にあふれる素敵なネーミングです。明治の初頭の旧暦から新暦に切り替わってからの呼び方といわれています。各寺院、地域の仏教会でも行うことの多い花まつりでは、花御堂（写真下）というミニチュアのお堂を花々で飾り、そのなかに甘茶で満たした水盤を設置します。水盤の中央にはお釈迦さまのお誕生時の姿の仏像「誕生仏」をお祀りし、柄杓でそのおつむから甘茶をそそぎます。「甘茶かけ」などとも呼ばれています。が、「灌仏」と称するのが本来の呼び方で、花まつりは「灌仏会」ともいいます。

「灌」とは「そそぐ」こと。經典によれば、お釈迦さまが誕生すると、空からその身体に向けて温涼2種類の清らかな水流がそそがれたなど伝えられます。灌仏はそうした伝承に基づく儀礼で、龍の口から水流が流れ出たとも伝えられています。灌仏は産湯代わりだったようです。

この灌仏、古代インド儀式の「灌頂」と関係がありそうです。灌頂は国王の即位などにあたり、頭上（頂き）に世界中の海水に見立てた水をそそいで、全世界を支配していることを表す儀式です。この灌頂の儀式は仏教のなかにも見られます。菩薩が仏となる時、諸仏が菩薩の頭上に智慧の水をそそいで、その証とするというのです。こうしてみると、花まつりの甘茶かけは、お釈迦さまへの灌頂を表しているとも理解できるでしょう。お釈迦さまは生まれた時から仏となるこの証を与えられていたのです。

### お釈迦さま 誕生エピソード

ところでお釈迦さまは人としてこの世に生まれながらさとりを開いて仏となるという極めて奇跡的な一生を送られた

ました。お釈迦さまのお誕生もまた奇跡的なエピソードに彩られています。母親のマヤー妃の右脇から生まれたとか、生まれてすぐに7歩ほど歩いたとか。なかでも注目されるのは、右手を挙げて天を指さし「天上天下唯我独尊」と宣言したこと。花御堂にお祀りする誕生仏はまさにその時のお姿なのです。

さまざまな經典には、この宣言の前後の言葉が添えられています。要約すると「私はこの一生を通じて仏となり、迷い苦しむ人々を救い導く」と読み取ることが出来ます。他の誰でもない、この私が救い導く。私がやらずに誰がやる。「ただ我れ独り尊し」の宣言から、仏として一生を生きて抜いていくお釈迦さまの覚悟が伝わってきます。

私たち一人ひとりには、かけがえない存在、ひとしく尊い命を頂戴したお互い。他の誰でもない自分自身の人生を生きて抜いていく。誰しもその覚悟が大切なのではないのでしょうか。花まつりは幼子の健やかな成長を願う機会でもあります。ひとしく尊い我が命をそれぞれに輝かせたいものです。